

米国でのロシア語教育における 評価ルーブリックの一例について

トルストゲーゾフ・A*

1 はじめに

言語教員のための最も困難なタスクの1つは、生徒が何を、そしてどのくらい学ばなければならないことを決定するために効果的な方法を見つけることである。教員は彼らへの指導目標と、その目標を達成するためのサポートの役割を果たすことができる評価について考えなければならない。効果的な評価ツールは教育課程の組み立てと改善に大きく役立ち、教室での効果的な評価は、何を評価すべきかという理解から始まるため、評価は教育目標とカリキュラムを反映しなければならない。

世界の外国語教育において、教育目標を定め、学習標準であるスタンダードが注目されている。米国で1996年に刊行された『Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century 21世紀の外国語学習スタンダード』は、生徒が外国語について何を知り、外国語で何が出来るかということを説明している。『スタンダード』は、5つの広い学習目標領域—能力 (goals) (5Cs)—Communication (コミュニケーション、意思伝達) ; Cultures (文化) ; Connections (コネクション、他教科との連携) ; Comparisons (言語や文化の比較対照) ; Communities (コミュニティ、地域・グローバル社会への参加) を含み、各学習目標領域は、特別の知識と能力を教えるいくつかの内容スタンダードを含む。スタンダードは教育教授法と評価のための原則を提供している。

特に重要とされているCommunication学習目標領域は3つのコミュニケーション・モード (形態) : Interpersonal mode—対人的コミュニケーション、Interpretive mode—解釈的コミュニケー

ション、Presentational mode—提示的コミュニケーションとして記述されている。

米国の外国語学習スタンダードは特定の言語に適用するものではないため、全ての外国語で使用でき、日本では2012年に刊行された『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国語教育からの提言2012』と2016年に刊行された『Стандарт обучения иностранным языкам для преподавателей русского языка как иностранного 外国語学習のめやす—ロシア語教育用—』(以下「学習のめやす」)は大いに米国のスタンダードの影響を受けている。

両「学習のめやす」では、学習目標である総合的コミュニケーション能力の獲得は、

3 領域×3 能力+3 連繋

3 領域：言語・文化・グローバル社会

3 能力：わかる・できる・つながる

3 連繋：学習者・他教科・教室外

と幅広い要素を持ち、さらに、教育の15の話題が選定され、4つのレベルの言語運用能力指標(それぞれが「対人」「解釈」「提示」の3つのコミュニケーション・モードを持つ)が設定されている。

言語教育で重要な役割を果たす評価の分野で、中国語と韓国語の「学習のめやす」は「伝統的評価から新しい評価へ」というモットーを掲げ、評価においては、学習者中心の評価を重視することや様々な評価を組みあわせることで、予め評価標準を決めることがキーポイントであるとしている。そのため、評価標準が明確であり、学習効果を高める評価方法として、ルーブリック(数段階に分けてレベルのめやすを記述した

* 青森公立大学准教授

もの。達成度を判断する評価基準表)による評価を推薦する。

ルーブリックは、評価分野において、パフォーマンスに対する効果的、信頼できる評価であり、学習者の書面や口頭での自由形式のタスクに対する回答を測定する手段である。

中国語・韓国語の「学習のめやす」の教育目標の領域では異なる要素で評価を行なう次の3つのグループのルーブリック例が提示されている。

○文化領域の3つの例

- ・例1：関心・観察・気づき・発見、比較（2項目）
- ・例2：文化事象の共通性・相違性の要因考察（3項目）
- ・例3：異文化間の調整と相互作用（5項目）

○グローバル社会領域の3つの例

- ・例1：協働力（4項目）
- ・例2：高度の思考能力（レベル1、2、3－6項目、レベル4－7項目）
- ・例3：情報活動能力（3項目）

○言語領域の3つのモード

- ・例1：提示モード（話す）（8項目）
- ・例2：提示モード（書く）（5項目）
- ・例3：対人モード（話す、聞く）（8項目）
- ・例4：解釈モード（聞く、読む）（6項目）

両「学習のめやす」は、ルーブリックによる評価とその作り方の説明、ルーブリックの種類例として「要素分解評価を4つのレベルで行うルーブリック（提示モード/話す）」と「全体的評価を3つのレベルで行なうルーブリック（提示モード/話す）」を提示する。

2. 米国のスタンダードにおける評価

ルーブリックの使用の一例

米国では長年に亘って言語教育において評価ルーブリックが使用されている。「学習のめやす」と米国のスタンダードが構造的に近いものである。例えば、「学習のめやす」では米国のスタンダードの言語領域の各コミュニケーション・モードや文化領域や連繫領域をそのまま利用し、グ

ローバル社会領域が米国のスタンダードのコミュニティ領域に当たる。「比較」表現は「学習のめやす」の3つの領域（言語・文化・グローバル社会）規定を含んでいるため、米国のスタンダードでの評価ルーブリックの参考資料として価値は高いと思われる。

米国では様々な評価ルーブリックの作成の試みが見られるが、National Capital Language Resource Center(NCLRC)¹⁾が2014に公開した資料：『Teaching World Languages: A Practical Guide』に注目したい。米国の文部省からの財政支援によって作成されたこのマニュアルは全国の外国語教員向けの様々なインストラクションを行い、多様な評価方法の紹介の中でルーブリックによる評価に多くのスペースを与える。

米国のスタンダードも「学習のめやす」も明確なゴールとその達成度を測る評価を定めるカリキュラムを作るために「カリキュラムのバックワードデザイン」という方法を使用する。すなわち、どんなコミュニケーションができるようになっていくかという能力目標を立て、それに基づいた評価を予め作り、学習者にカリキュラムの最後にどのようなテストを行ない、どのように評価されるかを知らせておくことによって、学習者は、何を習得すべきかがわかり、より高い目標を達成できるようになる[Стандарт 2016: 49]。このフレームワークは、整理させる目的、評価、及び指導を強調しており、特に重要なのは、評価が教育課程の動因となるという考え方である。

米国の外国語教育での「バックワードデザイン」は、スタンダードに整合して外国語のカリキュラムと評価の設計に適応されており、「カリキュラムのバックワードデザイン」の重要な側面は、外国語教育の指導が「ビッグアイデア」の探査によって行なわれることである。これらの「ビッグアイデア」は、「不朽な理解」と呼ばれる。

外国語指導の計画では、最初にスタンダード、例えば、「比較」を検討する：「標準4.2.目標文化と自己の文化の比較を通して文化の概念の理解を示す」。不朽な理解は、標準で提示された概念の学習者の理解を深める目的で、標準の関

連で開発されている。これらの不朽な理解の規定は、年間計画やテーマ別単元計画の一部であり、単元レベルでの不朽な理解は、単元のテーマに関連している。例えば、学年の計画の不朽な理解のサンプルは、「目標言語の文化及び米国の人々の日常生活における類似点と相違点がある」であり、「食」単元のための不朽な理解のサンプルは、「目標言語の文化や米国の文化の間に、人々が何を食べるか、食べものをどのように作るか、テーブルにどのように出しているかの類似点と相違点がある」である。

生徒が不朽な理解を分かるために役立つ「エッセンシャル質問」は、不朽な理解に由来している。「エッセンシャル質問」は、年間計画や単元カリキュラムの一環として提起されている。それは、レッスンレベルで、生徒が重要な材料に焦点を合わせることを助ける質問である。例えば、年度計画の「エッセンシャル質問」のサンプルは、「目標言語文化や米国での日常生活の中で類似点と相違点は何か」とする。また、「食」単元のサンプルは、「目標言語の文化や米国の間に、人々が何を食べるか、食べものをどのように作るか、テーブルにどのように出しているかの類似点と相違点が何か」とする。これらの「不朽な理解」と「エッセンシャル質問」の理解を実証するため、生徒ができるはずのパフォーマンス評価は総合評価の一部である。パフォーマンス評価は、「現実」または「シミュレートされた現実」のコミュニケーション活動に対して行なわれる。

具体的なパフォーマンス評価の一例として、「食」単元を勉強するグレード9、1年生の進歩を測定した単元終了時の総括的評価のサンプルを紹介したい。

この一例のパフォーマンス内容は、生徒に異なる目標言語圏の国の伝統的な食べ物などがどのように食べられているかについてのプレゼンテーションを準備させ、その過程におけるグループ内での活動である。

1. 各グループは、一カ国または地域の伝統的な食べ物を研究する。教師からの目標言語の一連の主要な質問を含む配布資料は、彼らの研究を案内する。リソースは、(全て

は目標言語で) レシピ、メニュー、食べ物の説明、ビデオ、写真、広告、インタビュー、目標地域のレストランに行くこと、目標文化の食料品店に行くこと、いくつかの料理を調理することなどを含むことができる。

2. 目標言語では各グループの生徒は、ある領域の伝統的な食べ物とそれらがどのように調理され、どのように出されているかについて情報を共有し、クラスのプレゼンテーションを設計する。教師は、クラスを対象としているプレゼンテーションの開発に創造的に活動するように生徒を奨励する。これには寸劇、パワーポイントのプレゼンテーション、料理のレシピ本、ビデオなどを含めることができる。
3. 生徒はプレゼンテーションを行ない、各グループの生徒も参加する。プレゼンターは、プレゼンテーション後に他の生徒からの質問に対して回答できるよう準備する必要がある。各生徒は、プレゼンテーションを聞いて、見て、メモを取り、全てのプレゼンテーションの内容を要約した資料を作成する。

この総括的評価における対人コミュニケーションは「目標言語で各グループの生徒は情報を共有し、プレゼンテーションを設計する。プレゼンターは、プレゼンテーション後の質問に回答できるよう準備する必要がある」とする。

上記のマニュアルは、American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) のパフォーマンス目標のガイドラインとしての『Performance Guidelines for K-12 Learners』(2002)とルーブリックの作成のガイドラインとしての『ACTFL Integrated Performance Assessment Guide』(2003)に基づいている。因みに、「学習のめやす」が定める言語運用能力指標の4レベルの中のレベル1と2は、『Performance Guidelines for K-12 Learners』のNovice Low/Mid レベルにおよそ相当すると言われる。

グレード9、1年生、「食」単元の評価ルーブリックはACTFLの上記の両ガイドラインによって作成されたものである。

対人コミュニケーションルーブリックNational

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
言語機能— やりとりの種類。	食べ物で一般的に発話する表現を使用し、理解することができる。食べ物についての簡単な文を使用して質問するか、答えることができる。学んだ言語の文を使用し、独自の意味を作るために学んだ言語と文を組み合わせて目標文化の食べ物を記述することができる。	食べ物で一般的に発話する表現を使用し、理解することができる。食べ物についての簡単な語句と文を使用して質問するか、答えることができる。記憶した言語を使用して、また新しい文を作るために記憶した言語と言語を組み合わせて目標文化の食べ物を簡単に、基礎的に記述することができる。	食べ物で発話する表現の少数だけを使用して、理解することができる。通常に1つの単語だけで、質問をするか、質問に答えることができる。食べ物の説明は、単一の単語や覚えやすく短い語句に限定する。
テキストタイプ— 発話/テキストの長さ。	食べ物について簡単な文や短いパラグラフを言う/書くことができる。	食べ物についての簡単な文を言う/書くことができる。	食べ物について単一の単語や語句だけを使用している。
コミュニケーション 戦略=会話への参加。	食べ物についての簡単な会話を、主な質問と回答に基づいて行うことができる。	質問に応答して、いくつかの質問をする。	質問に応答するだけ。
理解力。	通常、クラスメートや教師により理解される。	クラスメートや教師により時折困難でも理解されることができる。	クラスメートや教師により理解されるのは困難。
言語コントローラー— 文法、語彙、発音。	食べ物や食事について現在形で簡単な文や一連の文で正しいフォーム、語彙、発音、及びスペルを使用する。	記憶した言語で1つの単語と単一の文の場合に正しいフォーム、語彙、及び発音を使用する。	単一の言葉で正確。正確さは、語句で崩れる。
文化的意識。	行動と言語の選択肢は、食べ物や料理に関する文化的背景の良い意識を反映している。生徒は、目標言語の食べ物で礼儀正しい振る舞いを示すことができる。	行動と言語の選択肢は、食べ物や料理に関する文化的態度や背景のある程度の意識を反映している。生徒は、目標言語の食べ物で礼儀正しい振る舞いを示すことができる。	行動と言語の選択肢は、食べ物に関する文化的態度や背景の意識の不足を反映している。生徒は、目標言語の食べ物で礼儀正しい振る舞いを示すことができない。

ルーブリックの内容は生徒のレベルに合わせてなければならない。また、ルーブリックの作成は生徒の活動の一部になる必要がある。そのため、活動が始まる前に生徒にルーブリックを与

えて、標準の意味を考えさせなければならない。例えば、独自の文を使うこと、記憶した文だけを使用することの違いは何であるか、コミュニケーションのために、1つの単語、語句、文を

使用することの違いは何であるかである。その場合、教員はルーブリックをパフォーマンス評価のための手段として使用することができるとともに、生徒はルーブリックを自己評価と相互評価を行うために使用することができる。

次の総括的評価のルーブリックは、生徒が「食」単元の終わりで習得していることが期待される解釈能力やスキルを説明する：

- 生徒はレシピ、メニュー、食べ物の簡単な説明、ビデオ、写真、広告、目標言語国の人とのインタビューを読み、見て、聴いて、目標文化地域の料理のレストランと目標言語の食料品店に行き、いくつかの料理

を調理することを通じて、伝統的な食べ物、それらをどのように調理するか、テーブルに出すかの研究をする。

- 各生徒は他人のプレゼンテーションを聞いて、見て、メモを取り、全てのプレゼンテーションの内容を要約した配布資料を作成する。

解釈コミュニケーションルーブリック National Capital Language Resource Center(2014). Teaching World Languages: A Practical Guide. Chapter 7: Interpretive Communication. Reading, Listening, Viewing, pp.9-10.

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
リテラル理解。			
トピックを特定する。	通常、教師によって選択されたテキストのトピックを識別することができる。	多くの場合、教師によって選択されたテキストのトピックを識別することができる。	教師によって選択されたテキストのトピックを識別することができない。
単語を認識。	食べ物についての学習した単語や語句を認識する。	食べ物についてのいくつかの最も学習した単語や語句を認識する。	食べ物についての少数の学んだ単語や語句を認識することができる。
主なアイデアを見つける。	テキストに主な諸アイデアを識別することができる。	テキストに主な諸アイデアを識別することができる。目標文化の食べ物について(リーディング/リスニング/または見解)を通じて。	おなじみのコンテキストで目標文化の食べ物についていくつかの諸アイデアを識別することができる。
サポートの詳細を検索。	主な諸アイデアとそれらをサポートするいくつかの詳細を識別することができる。		
解釈(推論)理解			
タイトル、写真(書かれたテキスト)、アクション、設定(ビデオ)、音声トーン、設定(オーディオ)のような手がかりから意味を推測することができる。	独立的に、または助けを借りて、文章やコンテキストの手がかりから著者の食べ物についての態度を推測することができる。	独立的な手がかりから単語またはテキストの意味に関する推論を行うことができる。	時折助けを借りて、手がかりから単語またはテキストの意味に関する推論を行うことができる。
コンテキストから未知語の意味を推測する。コンテキストと知られている単語から諸アイデアを推測する。著者の立場を推測する。	絵、ジェスチャーや表現のようなコンテキストと他の言葉から多くの未知語の意味を推測することができる。	絵、ジェスチャーや表現のようなコンテキストからいくつかの未知語の意味を推測することができる。	未知語の意味を推測することはできない。

パフォーマンス評価のルーブリックは、生徒の年齢、トピック、興味に適合させる必要があるため、彼らにパフォーマンスの標準の意味を伝えなければならない。例えば、キーワードや語句は何であるか、主なアイデアは何であるか、見ていることと聞いていることから生徒はどのように主なアイデアを認識することができるか、推測とは何であるか、生徒はどのようにテレビCMの手がかりからその内容と作成者の目的を推測

することができるかである。

「食」単元のクラスの提示的コミュニケーションのためのサンプルルーブリックを以下に示す。テーマは「料理を作るビデオの作成」である。

提示コミュニケーションルーブリック National Capital Language Resource Center (2014). Teaching World Languages: A Practical Guide. Chapter 8: Presentational Communication. Writing and Speaking, pp.9-10.

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
言語機能— やりとりの種類。	ビデオの役割に応じて、口頭でスクリプト化の発話、或いは書き込みで、ナレーション、アクションの説明、コメント、質問を産出することができる。スクリプトとスクリプト化のスピーチは、言語使用におけるある程度の創造性を表す。	ビデオの役割に応じて、現在形でシンプルなナレーション、及びアクションの簡単な説明の書き込み、産出すること、または適切なコメントをすることができ、質問をすることができ。	真の言語のやりとり、口頭または書面のどちらか、または両方で、産出することができない。
テキストタイプ— 発話/テキストの長さ。 生徒が言う/書き込み することができる。	書面と口頭発表は、料理について、短い、簡単な文や学んだ材料の組み合わせを使用する。段落を作るため複数の文を書き込み、使用する。	書面と口頭発表は、料理について、学んだ表現や一連の語彙を組み合わせた短い簡単な文を使用する。文のいくつかの組み合わせを使用する。	書面と口頭発表は、料理について、語句及び単一の語彙を含むが、完全な文が少ない。
影響。	記述されたスクリプトと口頭発表は、調理のデモンストレーションのための焦点と関心を提供する。ビジュアル、ジェスチャー、言語の選択、及び他のプレゼンターとの相互作用は魅力的で整理されている。聴衆とコミュニケーションをとる努力の証拠がある。 食べ物や料理についての語彙は、アイデアを伝え、リストや調理指示を越えることまで拡大する。	記述されたスクリプトと口頭発表は、調理のデモンストレーションのための焦点を提供し、視聴者に興味深いものである。ビジュアル、ジェスチャー、及び他のプレゼンターとの相互作用は視聴者のための関心と明快さを提供する。 食べ物や料理についての語彙は、リスト、料理の名前や調理指示を伝えること、時折食べ物に関するコメントをするために十分である。	記述されたスクリプトと口頭発表は、組織化されておらず、目的が視聴者に明確ではない。ビジュアル、ジェスチャー、及び他のプレゼンターとの相互作用は興味や明瞭さが無い。 アイデアを表現するために十分な語彙を使用しない。
理解力。	教師や他の生徒が簡単に書面や口頭発表を理解することができる。	教師や他の生徒が書面や口頭発表をほとんど理解することができる。	教師や他の生徒には書面や口頭発表の理解がとて困難である。

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
言語コントロール -文法 -単語 -発音。	簡単な文で正確な文法、語彙、及び発音を使用して書かれたスクリプトを産出し、提示することができる。教師の支援なしで文を書き込むことができる。	記憶したスクリプトをコピーして暗唱するときにおおよそ正確である。教師から与える構造が少なければ少ないほど、執筆や口頭での発表に多くのエラーが発生する。	1つの単語をコピーして暗唱することがおおよそ正確である。
文化的意識。	言語表現、ジェスチャー、及び非言語的行動は密接にモデルを反映し、イミテーションだけでなく、自然に使用されているように見える。	言語表現、ジェスチャー、及び非言語的行動は教師によりモデル化されたものや観察材料（ビデオなど）を真似する。	言語表現、ジェスチャー、及び非言語的行動は自文化と同じで、目標言語文化のモデルを反映するものではない。

良いプレゼンテーションのために必要な標準の要素を生徒と議論し、特定の活動の場合に適切な評価項目を追加することができる。

米国のスタンダードによる外国語教育のコースの内容は、言語の文法や語彙ではなく、それらを通じて表す文化である。そのため全ての活

動は文化に繋がる。

文化的意識のルーブリック National Capital Language Resource Center (2014). Teaching World Languages: A Practical Guide. Chapter 9: Cultures, p.9.

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
文化産物に関する知識。	勉強したほとんどの食べ物の名前を特定し、全ての食べ物に名前を付けることができる。一つ以上の国のいくつかの伝統的な食べ物を識別し、それに名前を付けることができる。	一部の食べ物を特定し、食べ物に名前を付けることができる。少なくとも一つの国のいくつかの伝統的な食べ物を識別することができる。	少しの食べ物を特定し、それに名前を付けることができる。
生活習慣の知識。	正しいテーブルマナー、ジェスチャー、及び口頭表現を使用して、(実際またはロールプレーで)食べ物に参加することができる。この議論、食べ物を提供する、食べ物を賞賛すること、ホストに感謝するような行動を開始することができる。行動は目標文化の家庭で受け入れられる。	主に、正しいテーブルマナー、ジェスチャー、及び口頭表現を使用して、(実際またはロールプレーで)食べ物に参加することができる。いくつかの相互作用を開始する可能性がある。行動は、目標文化の家庭で外国人の行動として受け入れられるだろう。	とても少ない相互作用(食べたり、社会的やりとり)をして(実際またはロールプレーで)食べ物に参加し、または不適切なマナーや言語行動を表す。

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
産物や生活習慣からの背景についての推論を行う能力。	独立して産物や生活習慣から文化的背景を認識することができる。	助けを借りて、産物や生活習慣から食べ物について、いくつかの文化的な背景を認識する。	助けを借りても、文化的背景に関する推論を行うことができない。

文化的意識のルーブリックをコミュニケーション標準のルーブリックと組み合わせることができ、初めてルーブリックのコピーを生徒に渡す際、生徒に内容を理解させるために、教師が母語を使用することができる。例えば、「正しいテーブルマナー」、「ジェスチャー」、「口頭表現」の意味を説明する場合である。

連繫活動の総括的評価のサンプルは、目標文

化の国とその伝統的料理の研究での結果を発表する。すなわち、目標言語のレシピを読んで、料理を作る活動の中で「目標言語の測定単位を理解し、論じる」ことである。

連繫活動のルーブリック National Capital Language Resource Center (2014). Teaching World Languages: A Practical Guide. Chapter 10: Connections, p.9.

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
別の科目で学習した項目や概念を参照するために目標言語の語彙を使用することができる。	目標言語の数、量、及び測定値の全ての語彙を流暢に読み取り、産出することができる。	目標言語の数、量、及び測定値の語彙の大部分を読み取り、産出することができる。	目標言語の数、量、及び測定値の語彙の読み取り、産出が困難である。
目標言語の数と測定値を使用することができる。	目標言語で書かれた料理のレシピの数字及びメートル測定値を正しく使用することができる。また、数量の変更など、測定値を操作することができる。	目標言語で書かれた料理のレシピの数字及びメートル測定値を正しく使用することができる。	目標言語で書かれた料理のレシピの数字及びメートル測定値を使用することがかなり困難である。
学校の他の科目で取り上げたトピックを議論することができる。	目標言語のメートル測定法における数学的概念を議論し、米国の測定値と比較することができる。	目標言語のメートル測定法における数学的概念を議論することができる。	目標言語の量の測定、メートル測定法における数学的概念を議論することができない。

このような活動は、教師が目標言語に対する生徒のスキルを伸ばすだけでなく、他のクラスで行なっている勉強を補強するための機会である。

比較活動の総括的評価のサンプルは、目標文化と自文化に関する料理関係の慣用表現の学習

の評価のルーブリックである。

比較のルーブリック National Capital Language Resource Center (2014). Teaching World Languages: A Practical Guide. Chapter 11: Comparisons, p.7.

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
目標言語の食べ物についての慣用表現を使用することができる。	学習したコンテキストで学んだ慣用表現を正しく使用することができる。 未習コンテキスト(異なる料理や経験)に拡大できる。	学習したコンテキストで学んだ慣用表現を正しく使用することができる。	目標文化の料理に関連する慣用表現の多くを使用することができない。
英語で類似の慣用表現を識別することができる。	英語でいくつかの類似の表現を識別することができる。一般的にどのような慣用表現が機能するかについて話すことができる。	英語でいくつかの類似の慣用表現を識別することができる。	英語で慣用表現を識別することができない。「慣用表現」の意味を理解していない。
慣用表現における類似点と相違点を識別することができる。	助けを借りて、または助けなしに、言語間の慣用表現で、いくつかの一般的な類似点と相違点を識別することができる。背景について何を語るか推測することができる。	助けを借りて、言語間の慣用表現で、いくつかの一般的な類似点と相違点を識別することができる。	助けを借りても、言語間の慣用表現に類似点と相違点を話しかけることができない。

実際に、比較活動の評価のためにコミュニケーション・モードに文化要素を追加したルーブリックを使用している。

コミュニティ活動の総括的評価のサンプルは、目標文化コミュニティでの活動における目標言

語の使用を測定するためのルーブリックである。

コミュニティのルーブリック National Capital Language Resource Center(2014). Teaching World Languages: A Practical Guide. Chapter 12: Communities, p.7.

標準	期待を超える (3点)	期待に合う (2点)	期待に合わない (1点)
生徒は、個人的な興味や遊びのために、目標文化の料理の側面を論じ／探る。	標準に合うか、標準を超える証拠を提供する。	標準に合う証拠を提供する。	標準に合う証拠を提供しない。
生徒は、レストラン、店、バザーに行くこと、目標言語のコミュニティの誰かとの個人的な会話、メール、来客のために学校のメニューを翻訳するなど、いくつかの他の手段を通して、食べ物の話題で目標言語のコミュニティに関わる。	標準に合うか、標準を超える証拠を提供する。	標準に合う証拠を提供する。	標準に合う証拠を提供しない。
プレゼンテーションを通じて積極的に目標文化の食べ物について学び、非目標文化のコミュニティに対して、料理の説明をするなど、何らかの手段で目標文化料理の提示に従事している。	標準に合うか、標準を超える証拠を提供する。	標準に合う証拠を提供する。	標準に合う証拠を提供しない。

生徒をクラス内、及びクラス外の活動に従事させることができる。しかし、彼らがそれぞれの単元で全ての活動に従事することを期待するのは妥当ではない。

3. ルーブリックのグレード付けの問題点

ルーブリックという評価方法に様々な問題点があるが、教育現場での教員が直面する問題の1つであるグレード付けのための配点の工夫の問題点だけに簡単に触れておきたい。

一見して、生徒を客観的かつ非常に正確に評価しているかに見えるルーブリックは、すべての場合に生徒が到達したレベルの深さと幅を表しているとは限らない。確かに、一番下のレベルで生徒は言語手段が少ないのでタスクの可否を区別することしかできないが、上記の「標準に合う」と「標準に合わない」ルーブリックの評価レベル間の開きが大きすぎるため、「標準に合う」という目標の達成に自信を持っていない生徒にとって動機が下がる可能性を否定できない。そのため、あらゆる程度の「標準に近い」のような評価の導入に問題が残る。

次に、「期待に合わない」という「否定的な標準」の使用に対する疑問を持つ教育教授法の専門家がいます(例えば、Clementy D., Terrill L. 2013)。すなわち、全ての3つのレベルは教育課程においての成功へ向けた進展を表さなければならぬという信念である。これは、評価の標準に注目し、総括的評価に向けた教室内外の全ての活動に積極的に参加すれば、カリキュラムや単元などの途中に行なわれている形成的評価の結果を考慮に入れる生徒は必ず成功を収め、あるレベルに到達するはずという考え方である。このようなルーブリックは、かならず成功を収めることができるという自信を生徒に持たせる動機づけの役割を果たすものになると思われる。

さらに、上記に紹介したルーブリックに関するグレード付けの問題である。パフォーマンス評価の対象になるタスクとルーブリックの作成と使用は、今までのグレード付けの方法の多くの変化をもたらし、グレードは、生徒に彼らの

成績を伝えるための手段である。

ある日本の大学で使用されている期末評価のグレード：90%－A, 80%－B, 70%－C, 60%－D, 60%以下－Fに対して、上記のルーブリックを直接に当てはめると「期待を超える(3点)」は100%、「期待に合う(2点)」－66.7%、「期待に合わない(1点)」－33.3%でとなる。つまり、「期待に合う(2点)」は、合格のレベルでパフォーマンスする生徒が「D」しか得られないことになる。この解決方法としては、幾つかのことを挙げるができる。例えば、より細かい点数の使用である。即ち、「期待を超える」に「10点」「9点」を与え「A」になり、「期待に合う」に「8点」を与え「B」になるなどである。或いは、上記のグレード付けをそのまま使用する方法である。その時、パフォーマンスの成立を60%以上に定めて、「期待を超える」に「90%－A」を与え、「期待に合う」に「80%－B」を与え、あらゆる程度の「標準に近い」ような評価に「70%－C」か「60%－D」かを与えることになる。

4. 総まとめ

米国で行われている外国語教育での評価のルーブリックは、「不朽な理解」と「エッセンシャル質問」を通じて外国語教育の基準と繋がり、基準の内容で規定されている。そのため、標準化された評価で、高い信頼性をもっている。

紹介されたルーブリックの利点は、言語領域の各コミュニケーション・モードと他の4つの各目標領域が1つずつの総括的評価ルーブリックで測定されることである。全てのルーブリックでの評価は同じ内容の単元に対して行なわれるのでルーブリックの作成と利用に関して一定の統一性が達成される。

上記のルーブリックには問題がないわけではないが、教育課程への効率的な適用に向け十分な可能性が認められることから、今後も研究を継続する必要がある。

(2016年5月31日受付、2016年7月12日受理)

注

1) The National Capital Language Resource Center (NCLRC), a consortium of The George Washington University, the Center for Applied Linguistics, and Georgetown University, is one of fifteen foreign language resource centers nationwide funded by the U.S. Department of Education through Title VI of the Higher Education Act. Since 1990 the NCLRC has worked to strengthen the nation's capacity to teach and learn foreign languages through professional development, research on language learning and teaching, materials development, and dissemination.

参考文献

『Стандарт обучения иностранным языкам для преподавателей русского языка как иностранного 外国語学習のめやすーロシア語教育用ー』(2016) 国際文

化フォーラム。

『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国語教育からの提言2012』(2012) 国際文化フォーラム。

National Standards in Foreign Language Education Project 1999. *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*. Lawrence, KS: Allen Press, Inc.

Standards for Russian Language Learning 1999. In: National Standards in Foreign Language Education Project. *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*. Lawrence, KS: Allen Press, Inc.

National Capital Language Resource Center 2014. *Teaching World Languages: A Practical Guide*. The George Washington University. Washington, D. C.

<http://nclrc.org/TeachingWorldLanguages/>

TWL_English/Intro-Ack.pdf

(インターネット上のは2016年5月6日に参照した)